

iとらむ

「iとらむ」…「とらむ」は新型路面電車のこと。「i」はikebukuroに人と環境に優しい「愛=i」のあるまちづくりを願う、この会の理念を表しています。

Contents ▶▶▶▶▶

目次

- 2020年の東京都と池袋…2.3
- 圧倒的な魅力の池袋東口LRT回遊線…4
- まちづくりは未来との交流…5
- 新副区長に問一答…6 VOICE、コラム…7
- INFORMATION…8



創刊号

2004 ▶▶ 2015

2004年の創刊号から今号で第10号を迎えました。
「祝・LRT開通」号を発刊するまで、進み続けます。

2020へ向けて 未来へ



今号
第10号

2015

祝
東京オリンピック

開催まであと5年

2020年、オリンピックと池袋

オリンピックが東京に決まり歓喜に湧いてから時が経ち、国立競技場も解体が進みオリンピックに向けた具体的な動きが随所で始まっています。今度のオリンピックはおもに東京の湾岸部を中心に競技場や関係施設が計画されています。池袋はオリンピックで存在感を打ち出すことができるのでしょうか。

開発競争が続く東京都心部

2020年の東京オリンピック開催が決定し、東京各地では都市開発案件が目白押しだ。日本では21世紀に入る前から、経済的にも政治的にも、世界からすつかり取り残されたような塩梅だったが、自民党への再度の政権交代で、この

国は最悪期を脱し、街に活気が戻りつつある。そんな中で、東京副都心・池袋周辺の再開発もにぎやかだ。東池袋4丁目再開発を皮切りに、立教大学裏の補助172号道路の開通、池袋西口駅前整備、さらに南池袋2丁目の新区庁舎建設、造幣局移転に伴う再開発、現区庁舎跡地、駅の東西デッキ、環5の1道路、など、枚

再開発もにぎやかだ。東池袋4丁目再開発を皮切りに、立教大学裏の補助172号道路の開通、池袋西口駅前整備、さらに南池袋2丁目の新区庁舎建設、造幣局移転に伴う再開発、現区庁舎跡地、駅の東西デッキ、環5の1道路、など、枚

挙にいとまがない。しかし、目を周辺に移すと、実は、競争相手である新宿、渋谷にも、池袋を上まわる開発計画がある。もちろん、東京全体としても、オリンピックに合わせ、高速道路網の整備、リニア新幹線の建設、山手線新駅の設置、湾岸地区の選手村や競技場の整備など、世界中の人を東京に迎えるための多くの計画がある。オリンピックを中心に考えると、残念ながら、せつかくの池袋の再開発も「東京オリンピックに池袋の出番なし」という形なのだ。

外国人観光客誘致の目玉となる池袋LRT回遊線

しかし、オリンピックなどのイベントを招致して、観光客を呼び込み、テレビの放映権料を莫大に稼ぎ、それで施設建設費をまかない経済効果を上げるといふ事業モデルは、もはや過去のものかもしれない。オリンピック後のギリシャの破綻も、ブラジルのサッカーワールドカップで表面化した国内矛盾も、やりきれないものだし、日本でも既に新国立競技場問題が大きくなっているところだ。豊島区は世に先駆けて都市開発の発想

を転換すべきだろう。負担が後に残るハコモノ一発型の開発よりも、人々の日常がそのまま豊かさであり喜びであり幸福であるような街づくりができれば素敵だ。それには街づくりの原点に返り、街で人が出合い、交流し、絆を深めることに役立つものを作っていくことだろう。

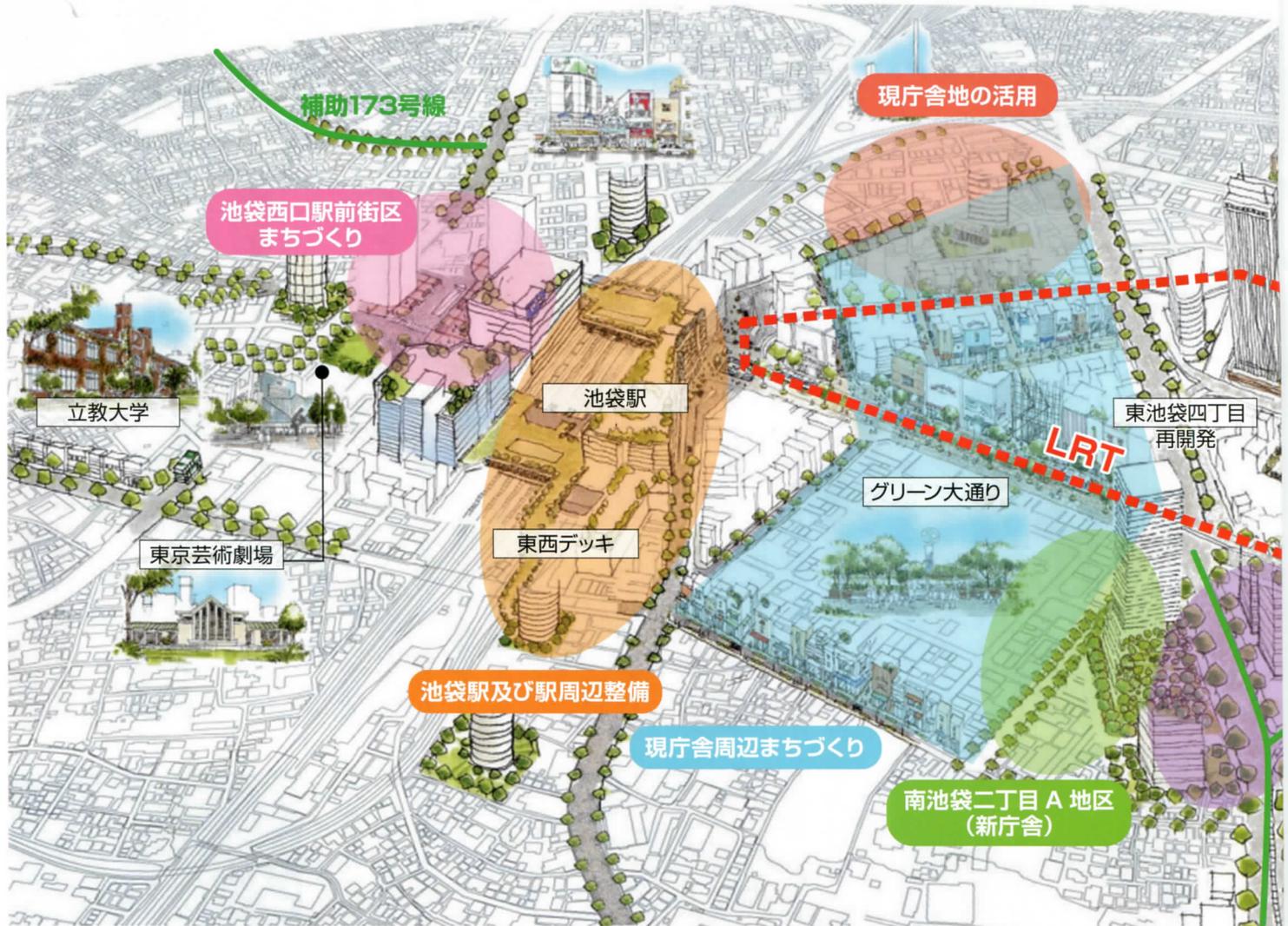
幸いなことに池袋の再開発は劇場や図書館、新区庁舎、商業施設等であり、駅前の広場とグリーン大通りをトランジットモール化するなど、今求められる街づくりが中心となっている。そしてここを楽しむには池袋LRT回遊線が最適だ。オリンピックに来る世界の人々を日本のおもてなしとともに、コンパクトな歩けるLRTの街・池袋に招待することができたなら嬉しい。安全・安心の街・池袋のシンボルとして、LRTは注目されることだろう。



2020年東京五輪の主な会場予定地



● 将来の池袋副都心はこうなる！



● 東京オリンピックまでの主な開発計画 (予定)

		池袋	
2015年	平成27年	新庁舎完成(5月)	現庁舎解体
2016年	平成28年		造幣局移転・解体工事着手
2017年	平成29年		
2018年	平成30年	西武鉄道日本社ビル・建替完成	
		東西デッキ基本計画策定	
2019年	平成31年		開発完成
東京五輪開幕			開発完成
2020年	平成32年	環状5-1号線整備完成	
		池袋LRT完成目標	

豊島区

「国際アート・カルチャー都市構想」

始動



豊島区を「世界中の若者が新たな表現文化の創造に挑戦できる街に」「クールジャパンのショーケースに」と、豊島区の「国際アート・カルチャー都市構想」がスタートした。広場や公演、道路などを開放し、街全体を音楽、演劇、ダンス、各種パフォーマンスの舞台として利用する「劇場都市・としま」を目指す試み。世界に通用する「アートの場」としての都市の景観が求められる。豊島区の表玄関、池袋駅東口のグリーン大通りのトランジットモール化、そして、LRTの導入が間違いなく、一番の近道だろう。

展望

これからの池袋東口とLRT

圧倒的な魅力の池袋東口LRT回遊線

池袋の路面電車とまちづくりの会 溝口 禎三
みぞぐち ていせう

●世界の人を迎える街づくり

南池袋2丁目の豊島区新区庁舎建物が見えてきた。隈研吾氏のイメージ通り、一本の巨大な地域の守り神の樹木のように未来遺産のまち雑司ヶ谷とエネルギーあふれる池袋とを結ぶ素敵なランドマークに仕上がっている。新庁舎建物は3月末には落成式が執り行われ、5月の連休明けには業務が開始される。池袋東口一

帯は、これに先行する平成19年の東池袋

4丁目再開発で誕生した「あうるすぽつ」と「中央図書館」があり、この後も、造幣局が移転してその跡地再開発があり、現区庁舎の跡地の再開発もある。また、平成31年度には駅前明治通りのバイパスとなる環5ノ1道路が完成し、そして、平成32年には東京オリンピックが開催される。豊島区はセーフコミュニティ



現庁舎周辺まちづくりのイメージ

ティの国際認証の時に初めて世界規模の大きな会議を開催したが、今後も増加する世界の観光客を迎えるまちづくりを意識しなければならぬ。

●まちづくりは未来との対話

今、池袋は間違いなく、サンシャイン60開業以来の大きな飛躍の時を迎えている。まちづくりは未来との対話といわれる。だから、まちづくりの当事者としては、現在のこの大きな再開発の先はどういう夢を見られるのかをイ

メージしなくてはならない。

私達の会は、環5の1計画が明らかとなった平成15年当初から、池袋東口駅前とまち全体の将来像を探り、LRTによる池袋のまちづくりを提案してきた。都市計画実現までには長い年月が必要とされるが、16年後に完成するバイパス

によつて駅前の様相ががらりと変わることは確実で、その未来を想像するために、未来との対話が必要だった。まちの光景を次世代の子供たちが誇れるものになりたい、また、まちを使う歩行者が安全快適に楽しめるまちにもしたい。そのため世界の成功事例の中から、池袋東口LRT回遊線を考え、さらに駅前大通りのトランジットモールの設置を訴えてきた。これは、池袋東口再開発が進み2020年くらいまでの変化が現実のものと思ひ描けるようになった今、ますます強く求められるまちの装置と考えている。

●心躍るまちのシンボルとなるLRT

統計的に確実な未来、望まれる未来



新庁舎イメージ

というものはある。今の日本で言えば、社会の少子高齢化と安全安心の平和な社会ということだろうか。そして、都市に求められるものと言えば、経済の活力とともに人の触れ合う喜びということも確実なように思われる。

幸いなことに、池袋の未来物語は順調に進んでいる。区が構想する池袋のグラウンドデザインには、さまざまな再開発に人間中心の視点を取り入れられている。池袋東口の中心市街地をトランジットモールとして市民に開放する姿勢などその最たるものだ。また、その中で公共交通としてのLRTの位置づけがしっかりしている。

池袋駅東口に降り立ったときに、幅50メートルの広いトランジットモール広場に人がゆつたりとカフェを楽しみ、そこを素敵なフォルムのLRTがゆつくりと走つてゆく。LRTの行く先は、新区庁舎、中央図書館、あうるすぽつと、サンシャインシティ、造幣局の跡地再開発地域、豊島区立総合体育場、豊島中央郵便局、東池袋中央公園、乙女ロード、サンシャイン通り商店街、現区庁舎跡地再開発地域などである。

10年後の池袋の路面電車は、街全体がアミューズメントパークのような池袋のシンボルであり、圧倒的な魅力のまちの、なくてはならない装置となっていることだろう。



「池袋副都心交通戦略」より池袋東口の構想図

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

**LRRTのシンボル性と
アミューズメント性に着目すべき**

○「自動車中心の社会」は、人同士の出会い・交流を邪魔している。自動車移動は確かに便利であり、全てを否定することは

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

日本強靱化とは心を開いた交流

○日本強靱化とは強くてしなやかなゴムまりのような耐性を備える日本を作ること。その要諦は「共同体の活力を活性化

○「まちづくり」は、つまり、人同士が出会い、交流すること。日本強靱化というマクロな取り組みと何の違もないそのものの活動である。

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

池袋の路面電車とまちづくりの会は10周年を記念し、平成25年11月8日、京都大学大学院教授・安倍内閣官房参与・藤井聡氏を迎え、豊島区民センター文化ホールで講演会を開催した。

講演会は、初めに豊島区都市整備部都市計画課奥島正信課長から、豊島区が23年9月に策定した「池袋副都心交通戦略」の説明があり、平成31年度に完成が予想される「環5の1道路」地下トンネルが池袋の街を劇的に変える可能性が語られた。

220名の席が、ほぼ満員となる盛況の中、藤井氏は持論の日本強靱化構想の基本的な考えと「まちづくり」が持つ意味、そして池袋がLRRTに取り組むことへの期待とエールに熱弁を振るわれて会場は熱気に包まれた。講演のポイントを挙げる。



「池袋副都心整備ガイドプラン」よりグリーン大通りイメージ図
LRRTを豊島区のシンボルに

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

講演

**まちづくりは未来との交流
チャレンジしない都市に未来はない**

池袋のLRRTに期待する 日本強靱化運動の藤井聡氏が熱弁

藤井聡



profile

京都大学大学院工学研究科教授。第2次安倍内閣・内閣官房参与(防災・減災・ニューディール担当)。著書に「列島強靱化論—日本復活5カ年計画」(文春新書)、「正々堂々と公共事業の雇用創出効果」を論ぜよ、「モビリティ・マネジメント入門—人と社会」を中心に据えた新しい交通戦略」共著(学芸出版社)など多数。新刊12月に「大衆社会の処方箋」(叢書 新文明学)を発表

チャレンジしない都市に未来はない

○歴史が過去との交流であるのに対し、まちづくりは未来との交流である。池袋の20年後、30年後を考えたとき、LRRTが「ある」池袋と「ない」池袋、どちらが子供達・孫たちにとってより良い街なのか、想像して欲しい。

○成功するメリットと失敗した時のデメリットを比較して、挑んで物事を変えた時の方が可能性があるなら、チャレンジしたほうがいい。

○今なんとかやっていけるから、もう新しいことはしなくていい、などという考えは今後通用しない。もしそう考えて何もチャレンジしないなら、未来は真っ暗だ。

おわりに藤井氏は、大切なのは「まちをどうするか」のビジョンと「言葉」だと語った。いかにその気持ちと意欲を目の前の人一人一人に伝えるか、その努力こそが池袋LRRT実現の道筋と説いた。

この日の講演を聞いてLRRTを導入するまちづくりに賛成に転じたと言語人も出るほど、そのことを証明するような聴衆の心を揺り動かす熱い講演だった。

勿論できないが、自然を感じることも、人と触れ合うことを阻む事実がある。

○「心を開いた」
「人を活気づけること」「社会を活性化すること」に尽きる。

インタビュー

国交省まちづくり専門官が豊島区副区長に就任

新副区長に一問一答

池袋LRT計画はどうなる?!

豊島区副区長 渡辺 浩司



profile

昭和37年生 昭和60年4月建設省入省
平成19年10月国土交通省都市・地域整備局
都市計画課施設計画調査官
平成22年7月同省同課都市計画調査室長
平成24年2月(併)復興庁統括官付
平成24年7月東日本旅客鉄道株式会社総合
企画本部ターミナル計画部担当部長

タルに街を良くするためにはどう関係し、効果を生むかを横断的に考えて取り組みたいと思います。

都心のLRTは相乗効果が実現の道

Q…国が期待するLRTの役割…

W…国交省はコンパクトシティを視野に、人口減少型の地方都市の再生にLRTを機能させることができると考えているようです。

Q…都心地区のLRTは…

W…一方、都心のまちづくりに求められていることは連携と協働だと思えます。大都市でのLRTは、都市のシンボルになるような機能も期待されると同時に、再開発の大きな計画と繋がって、都市形成の共通の目的を叶えるために行政と民間がいかに相乗効果を出すかが重要です。

Q…池袋LRTの実現性について…

W…新庁舎や現庁舎地周辺地区、グリー

ーン大通り、サンシャインシティや造幣局地区などとの連携が重要だと思います。特に新庁舎完成以降の池袋の発展においてLRTが何のために必要なのかを明らかにすることが実現の道になると思います。

一つずつステップを進めてLRT導入効果の検証を進める

Q…今のルート案は短すぎる、東口だけでなく西口や大塚にもという声があります…

W…やはり何を目的にするのか、どうう。そのためにもコストがどうあるのか、判断材料になるはず。そのうえで将来構想のなかで段階的に取り組むことも一つの方法でしょう。バスでは得られないシンボル性があることは理解しています。

Q…池袋LRT実現に向けて一言…

W…豊島区の都市としての将来像を実現するためにLRT計画があることは認識しています。一つずつステップを進めながら駅前広場や周辺の開発の実現とともにLRTを導入して大都市部ならではの相乗効果を出していきたいと考えています。まずは、社会実験的にグリーン大通りを中心にオープンカフェなどでのエリアマネジメント手法も採り入れて効果の検証をする方針です。



トータルにまちを良くするため、横断的に考えたい

質問(以下Q)…これまでのご経験で印象深いお仕事を聞かせください…

渡辺副区長(以下W)…建設省入省後、主に都市まちづくり分野で地方都市の計

画に多く携わってきました。福岡県ではコンパクトシティ構想の実現に責任ある立場であったり、また宮城県では震災後の役場が壊滅したなか学識者やコンサルタントと一緒に国の都市局がワンセットで対応にあたる復興まちづくり支援は貴重な経験をしたと感じます。

Q…池袋の思い出はありますか…

W…学生時代は通学経路でありましたが、西武・東武の百貨店、ビックカメラ、サンシャインシティなど大きなショッピングセンターがあるというイメージが強くあり、街なかには出にくかった記憶があります。

Q…豊島区の都市計画の印象は…

W…都心地区らしい複数のプロジェクトが今まさに始まりつつあります。一つ一つが関係性を持ち、全体を連鎖的に動かしていくことが必要なのではないかと感じています。

Q…副区長としての方針は…

W…一つの大きなプロジェクトを動かすために、ということだけでなく、ト

Voice ▶▶▶▶▶

もちづき あきひこ
望月 明彦さん

前 国土交通省大臣官房技術審議官

2014年はドバイで新たにLRTの開業が予定されるなど、2010年以降、世界20都市程度において新たにLRTの導入が行われています。その一方で、なぜ日本では富山市しか導入が進んでいないのか、といったご質問をよくいただきます。

富山ライトレールの事業化にあたっては、前身のJR富山港線が利用者減少の中で存続が危ぶまれる状況であったことから、高頻度運転の実施、駅アクセスの改善やバリアフリー化などによる利便性の強化により利用者を増やすという考えに交通事業者等から懐疑的な声が出ていました。しかし、沿線の居住の促進、魅力あるまちづくりの促進などと一体的に進めることで、LRTの利用者は従来の2倍強になりました。

この利便性の高い公共交通サービスの提供をまちづくりと一体的に進める取組を全国の都市に広げるため、今般、都市再生特別措置法と地域公共交通活性化再生法の改正が行われました。この2つの法律を活用することにより、コンパクトで公共交通が充実した都市の形成を進めることができると考えております。

池袋周辺においてLRTの導入構想があるようですが、利便性の高い公共交通が実現すれば相当の利用客が見込める有望な地域だと思います。国土交通省としても、まちづくりと交通が連携した取組を積極的に支援を行って参りたいと考えております。



Column ▶▶▶▶▶

都市再生特別措置法の改正の概要

市町村が「立地適正化計画」を作成

- ・居住誘導区域=居住を誘導し人口密度を維持するエリア
- ・都市機能誘導区域=生活サービスを誘導するエリア
- ・それぞれを誘導するために市町村が講ずべき施策

➡ 連携した公共交通に関する施策を講じる

上記Voiceにある2つの法律の改正を解説します。
地方都市では市街地が拡散して低密度な市街地が形成され、大都市では高齢者の急増が見込まれます。
そのため、居住や都市機能を集約し、それを支える持続可能な地域公共交通ネットワークを作り上げる必要があります。
都市再生特別措置法の改正は、居住や都市機能の集約を推進するものです。平成26年8月1日から施行されています。市町村が「立地適正化計画」を作成し、居住誘導区域と都市機能誘導区域を定

まちづくりと公共交通を大きく変える2つの法律

地域公共交通活性化再生法の改正の概要

市町村・都道府県が「地域公共交通網形成計画」を作成

- ・地方公共団体が中心となる
- ・まちづくりと連携
- ・面的な公共交通ネットワークを再構築

➡ 国は地方公共団体を中心とした地域公共交通網の再構築を支援

めまします。同時に、それぞれを誘導するために市町村が講ずべき施策を定めます。
地域公共交通活性化再生法の改正は、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成を推進するものです。平成26年11月20日から施行されています。
前者はまちづくり、後者は公共交通に関わる取組みです。両者が相まって、公共交通を軸とした「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指します。
まちづくりと公共交通は、車の両輪です。今回改正された2つの法律を活用し、コンパクトで公共交通が充実した都市の形成を目指す取組みは、国から様々な支援を受けられます。
池袋でも、住みやすい、働きやすい、訪れたくなるまちづくりに資するLRTを実現したいものです。

INFORMATION

活動報告

平成24年12月～

- 平成24年
12月21日
●第10回総会開催
●講演会開催「LRT導入とまちづくり」
一般財団法人運輸調査局・板谷和也氏

- 2月28日
●「第6回としまものづくりメッセ」に出展参加

- 7月1日
●当会10周年記念「LRTが叶える私の夢」作品募集開始。9月30日まで

- 9月3日
●ひたちBRT研究会に参加

- 9月6日
●豊島区LRT研究会に参加

- 平成25年
11月1日
●日本経済新聞紙上で「LRTが叶える私の夢」当選者発表

- 優秀賞 車両デザインの部
田中しおりさん(宇都宮市)「みんなの癒し」

- 優秀賞 イラストの部
岩本博未さん(宇都宮市)
「水面の下を歩く ～人のつながりを生む縁盤」

- 優秀賞 文章の部
加藤貴久さん(豊島区)
「LRT回遊線を池袋・豊島区の『宝箱』に」

- 優秀賞 文章の部
平井郁雄さん(練馬区)「2020年の池袋」

- 特別賞 イラストの部
水野良太郎さん(練馬区)「トラムが走る街」

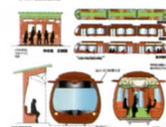
- 11月8日
●第11回総会開催
●講演会開催「池袋のLRTに期待する」
内閣官房参与・京都大学大学院教授 藤井聡氏(本誌5ページ)

- 3月30日
●東京LRT連絡会ミーティング懇親会に参加

- 平成26年
4月24日
●豊島区LRT担当者との懇談会

- 10月～11月
●平成26年秋のオープンカフェ 第1回社会実験 実行委員会として参加

- 10月29日
●豊島区自民党区議団への予算要望



田中さんの作品



岩本さんの作品



水野さんの作品

入会のご案内

入会方法・年会費

会員募集

- 個人会員(個人的にご入会の場合) 年会費3,000円
- 法人・団体会員(会社・学校・病院・町会・商店会・任意団体などでご入会の場合) 年会費10,000円
また別途、賛助会員もお受けしております。年会費 一口10,000円(一口以上からお受けしております)。
別紙申込書にご記入の上、下記にファクシミリ、または郵便でお送りください。
「郵貯銀行 口座記号00130-5 口座番号482246 加入者 池袋の路面電車とまちづくりの会」※赤色用紙をご利用ください

お問い合わせ

公益財団法人としま未来文化財団みらい文化課タウンデザインセクション
「池袋の路面電車とまちづくりの会」事務局 担当:溝口 TEL:03-3983-2483
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-10 担当:奈良 TEL:03-3981-4732 FAX:03-5992-6099
e-mail:go-go@i-tram.com ホームページもご覧下さい <http://www.i-tram.com>

トランジットモールという未来

編集後記

一日250万人の乗降客を呼吸する池袋駅。その東口駅前にはJRの線路に沿うようにして都の幹線道路・明治通りが走っているが、このバイパス工事(環5の1道路)が、平成31年度の完成を目指して、急ピッチで進んでいる。「新明治通り」が完成した際には、沿道に建つ新庁舎もさらに利便性が高まるだろうし、この平成32年には、東京オリンピックも開催され、東京は世界中からの人であふれる。

豊島区では、環5の1道路完成によって大きく変わる池袋駅前の道路使用の方策として、トランジットモールと公共交通としてのLRTを構想している。トランジットモールはたとえて言うなら、ヨーロッパの古い街の旧市街の中心にある広場だ。区内にはすでに各地域に「区民ひろば」があり、それぞれ活発な区民活動の場となっている。これが、池袋駅前のトランジットモールと連携したらと想像するだけでも楽しい。トランジットモールの象徴空間となるだろう。(横)